

☆ 視 点

2014年の世界の繊維品貿易動向

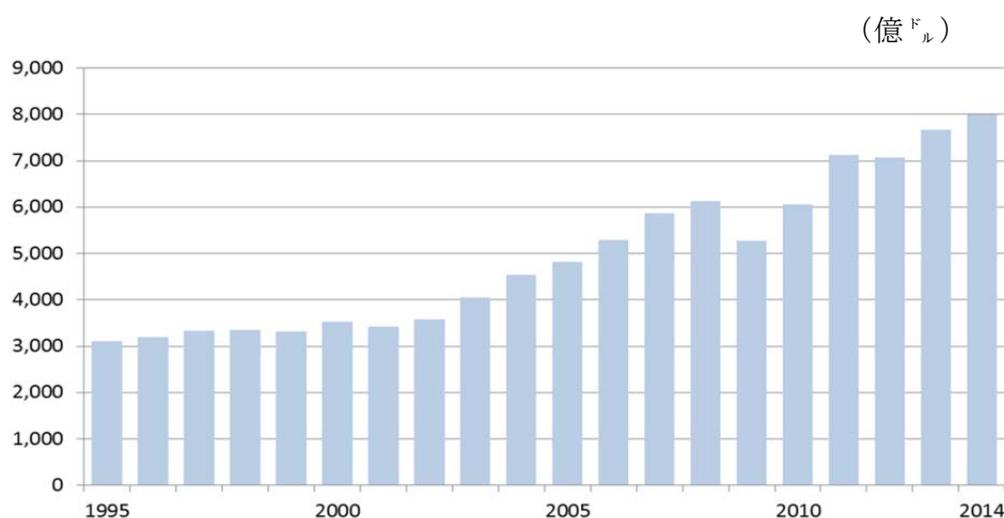
1. 世界の繊維品貿易

2014年の世界の繊維品貿易（輸出ベース）は、前年比4%増の約8,000億ドルと推定され、2年連続で過去最高を更新したとみられる。

世界の繊維品貿易は、2000年代中盤までは緩やかな伸びであったが、世界的な貿易自由化の進展（2005年の繊維協定失効、中国・ベトナムのWTO加盟、近年のFTA網の拡大、欧米日の特惠関税の拡充等）とともに拡大傾向が続いている。

その結果、世界の繊維品貿易の伸びは、2010年以降、年率7%を超える高い伸びとなった。

世界の繊維品貿易の推移



(注)EU 域内貿易、香港等の再輸出を含む

(出所)2013年まではWTO、2014年は日本化学繊維協会推定

2. アジア主要国の繊維品輸出

世界の繊維品輸出のうち、アジアからの輸出が全体の7割以上を占めるとみられる。2014年の主要国の輸出動向は以下の通り。

中国は前年比5%増の2,993億ドル、主力のEU(13%増の590億ドル)、米国(8%増の440億ドル)向けが堅調となったほか、ベトナム向け(前年比20%増の160億ドル)は大幅増が続き、ロシア向け(6%増の132億ドル)も

続伸した。その一方で、日本向け(9%減の244億ドル)、香港向け(16%減の165億ドル)は減少した。

日本は為替の影響もありドルベースでは1%減の88億ドル、韓国は0.3%減の159億ドル。台湾は1%減の121億ドルと、極東3か国の輸出はいずれも減少した。

タイ、インドネシアは、それぞれ1%増の87億ドル、0.4%増の131億ドルと低い伸びにとどまった。欧米向けの伸びが鈍化したことも一因となった。

ベトナムは16%増の249億ドル、2010年以降は年率17%増と大幅増が続いている。好調な欧米向けの輸出に加え、アセアンを軸としたFTAの効果から、中国、韓国、日本向けも大幅増が続いている。

インドは5%増の398億ドル、376億ドルとなった。欧米向けの製品輸出、ベトナム、バングラデシュ等低コスト向けの紡織品輸出がともに増加している。

バングラデシュは5%増の246億ドルとなった。労働安全問題、環境問題、労働者のデモ頻発などの問題もあったが、低コストを武器に堅調に輸出を拡大しており、2010年以降は年率13%と、2桁の伸びを維持している。

パキスタンは2%増の136億ドルとなった。2014年はEUの特恵関税のGSPプラスの恩典(無税)から、EU向けは約2割の大幅増となり、他地域向けの減少をカバーした。

トルコは6%増の298億ドルとなった。主力のEU景気の底入れもあって堅調であった。

アジア主要国の繊維品輸出

(億ドル、%)

	2010	2011	2012	2013	2014	前年比	10年比 (年率)
日本	89	102	99	89	88	-1.2	-0.5
韓国	139	160	156	159	159	-0.3	3.4
台湾	118	132	123	122	121	-0.8	0.6
中国	2,074	2,499	2,560	2,849	2,993	5.1	9.6
タイ	89	95	86	87	87	0.9	-0.3
インドネシア	116	137	129	131	131	0.4	3.1
ベトナム	133	168	181	215	249	15.8	17.0
インド	279	336	339	378	398	5.4	9.3
バングラデシュ	149	192	199	235	246	4.6	13.4
パキスタン	111	138	128	133	136	1.7	5.2
トルコ	220	255	260	282	298	5.6	7.8
EU(域外)	475	567	559	592	616	4.1	6.8
米国	247	298	276	279	272	-2.4	2.5

(出所) 同前

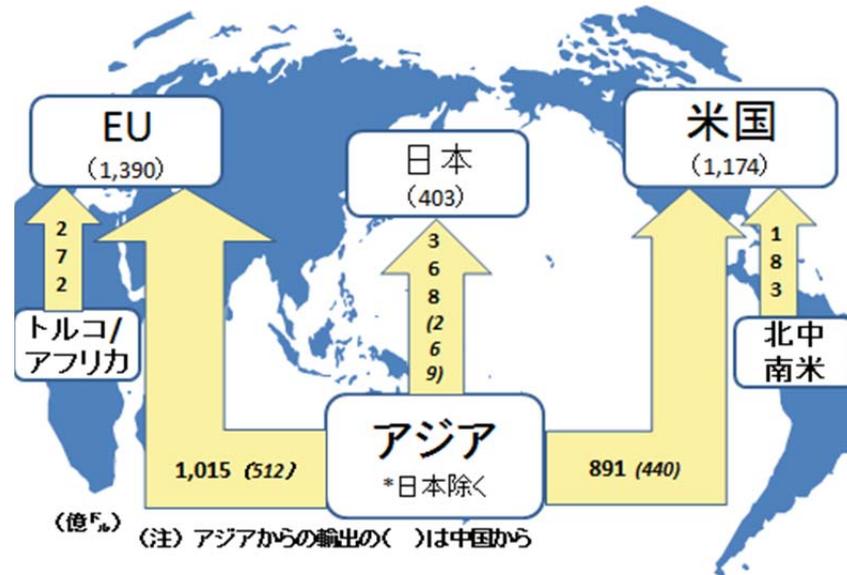
3. 世界の繊維品輸入

世界の繊維貿易では、日本、EU、米国の先進国地域で世界の繊維品輸入の過半を占める。一方、供給地としては、アジアからが中心となっており、EUは繊維品輸入全体の73%、米国は76%、日本では91%がアジアからの輸入で占めている。

EU、米国のアジアからの繊維品輸入は、いずれも中国が約半分を占め最大である。但し、近年、中国シェア低下の傾向が続いており、EUでは、中国のシェアは2010年がピークで42%であったが、2014年は37%、5ポイントのシェア低下、米国では、2009年の39%がピークで、2014年は37%へ2ポイントシェアが低下している。なお、日本では2009年の78%がピークであったが、2014年は67%へ11ポイントシェアが低下している。中国にかわってシェアを拡大しているのは、EUではバングラデシュ、カンボジア、米国ではベトナムである。またEU、米国の近隣(トルコ/北アフリカ、北中南米)からの輸入も近年増加傾向を示している。

世界の地域別繊維貿易フロー(輸入ベース)

(億ドル)



4. アジアの繊維品貿易フロー

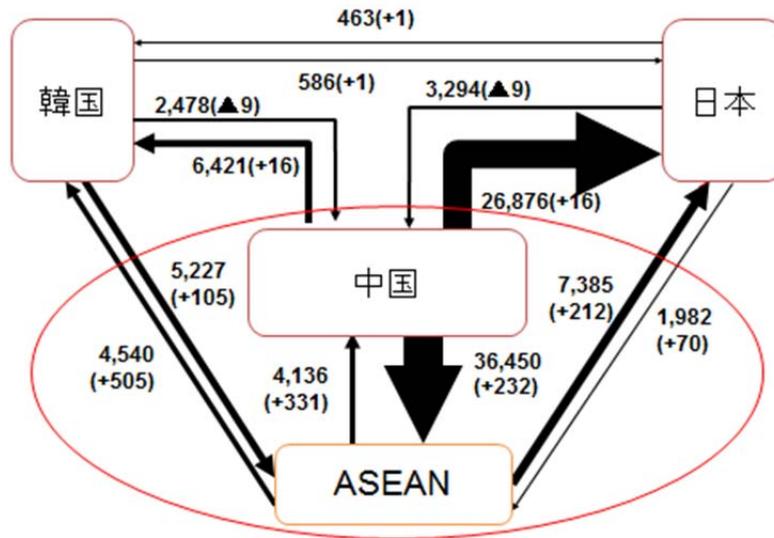
アジアは、伝統的に欧米向け繊維品輸出が中心であったが、近年は、アジア域内の FTA 網の拡大、ベトナム、バングラデシュなど低コスト国の急成長とそれに伴う紡織品需要の拡大、中国、韓国企業等のアセアン投資の活発化などがあって、アジア域内の繊維品貿易は、世界の繊維貿易の伸びを上回る成長を示している。

とりわけ、アジア域内では、アセアンを軸とした FTA (日アセアン:AJCEP、中国アセアン:ACFTA、韓アセアン:AKFTA) において、2010 年迄に多くの繊維品の関税が撤廃されたこともあり、アセアンを軸とした繊維品貿易 (下図の赤の部分) が大きく拡大、2014 年もその傾向が継続した。一方で、日中韓の繊維品貿易は、その間、比較的低い伸びにとどまっている。

2014 年はアセアンを軸とした貿易フローは前年比 8% 増の 597 億ドル (2007 年比では 3.2 倍) となったのに対し、日中韓の繊維貿易は同 8% 減の 400 億ドル (2007 年比では 11% 増) となり、アセアンを軸とした繊維品貿易フローは日中韓の繊維貿易の約 1.5 倍の規模にまで拡大した (2007 年は 187 億ドル、日中韓の繊維貿易フロー 360 億ドルの約半分の規模であった)。

東アジアの繊維貿易フロー

(100万ドル)



(注) 輸入ベース、

()は2007年(東アジア地域にFTA未締結時期)との比較(%)

(業務調査グループ 鍵山)

以上